

2011年5月13日パリ

本書は、英語による Crédit Agricole SA 2011 年第 1 四半期報告書の抄訳であり、英語による原文がすべての点においてこの日本語の抄訳に優先します。疑義がある場合には英語の原文に従い解釈をお願いいたします。

2011年第1四半期業績

- グループ、クレディ・アグリコルS.A.共に収益が大幅に拡大
- クレディ・アグリコル・グループの純利益グループ帰属分は前年同期比60.9%の上昇
- クレディ・アグリコルS.A.の純利益グループ帰属分は前年同期比2倍に増加

グループの全事業部門において好業績を達成すると共に
コスト関連費用削減を実現

クレディ・アグリコル・グループ*

収益: 前年同期比 7.7%増加

営業総利益: 前年同期比13.4%増加

リスク関連費用: 前年同期比22.1%減少

純利益グループ帰属分: 15億2,700万ユーロ、前年同期比60.9%増加

ティア 1 レシオ: 10.5%、コア・ティア 1 レシオ: 9.0%

クレディ・アグリコルS.A.

収益: 前年同期比10.0%増加、同一条件及び一定の為替レートの下で9.2% 増加

営業総利益: 前年同期比22.0% 増加、同一条件及び一定の為替レートの下で21.3%増

リスク関連費用: 前年同期比23.5% 減少

純利益グループ帰属分: 10億ユーロ、前年同期比の2.1倍

ティア 1 レシオ: 10.8%、内コア・ティア 1: 8.7%

*クレディ・アグリコル S.A.及び地域銀行の 100%

クレディ・アグリコル・グループ

2011年第1四半期のクレディ・アグリコル・グループの純利益グループ帰属分は、前年同期比60.9%増の15億ユーロとなりました。

この極めて優れた業績は、全事業部門の着実な推進力と、リスク関連費用の大幅な削減によるものです。

収益の伸びは7.7%で、例外的項目の影響は受けませんでした。主としてリテール・バンキングの着実なビジネスが収益を牽引しました。これは当グループの収益の60%を占めました。地域銀行は、引き続き住宅ローンの融資(貸付決定)承認額の大幅な伸びを達成しました。預金等受入れ(要求払預金、Livret A 預金、生命保険)による確実な業績と並んで、貸付残高も6.5%増加しました。

営業総利益は、全ての部門の事業運営の効率性改善を反映して、13.4%の著しい伸びを示しました。

リスク関連費用は、引当金の積増しにも拘わらず22.1%減少しました。引当金の増加は主に、地域銀行とCA-CIBのファイナンス事業に見られました。リスク関連費用の減少は経済状況が着実に改善していることを反映しています。

営業利益は、当グループの継続事業活動を示しており、44.4%増の25億ユーロに達しました。

クレディ・アグリコルS.A.

2011年第1四半期の業績検討のために、2011年5月12日にジャンマリ・サンデルを議長とするクレディ・アグリコルS.A.の取締役会が行われました。純利益グループ帰属分は、10億ユーロで2010年第1四半期の2倍を上回りました。2010年第1四半期には、非継続事業の損失とインテサ・サンパオロの持ち分の一部売却損によりマイナスの影響を受けていました。

クレディ・アグリコルS.A.の会長であるジャンマリ・サンデルは、当期の業績結果はクレディ・アグリコルS.A.の全ての部門の優れた事業推進力を反映していると述べました。また、全般的に事業運営の効率性が引き続き改善されていることと、リスク関連費用が大幅に削減されたことも強調しました。

クレディ・アグリコルS.A.のCEOであるジャンポール・シフレは、営業利益がこれまでの2倍を上回る12億ユーロに達したこと、加えて殆どの事業部門において、クレディ・アグリコルS.A.の上場以来、最高営業利益を達成した、と発表しました。また、地域銀行によるクレディ・アグリコルS.A.の業績結果への寄与がここ数年で最高水準に達したと述べました。

収益は、同一条件及び一定の為替レートの下で9.2%増加しました。各事業部門で改善が見られ、フランスのリテール・バンキングのLCLでは4.2%の増加¹、国際リテール・バンキングでは7%の増加、専門金融サービスでは2.1%の増加が見られました。資産運用ビジネス部門とCA-CIBは二桁の成長率を達成し、2010年とは異なり、臨時的項目からマイナスの影響は受けませんでした。

費用面は抑えることができました(同一条件及び一定の為替レートの下で2.8%増)。これは、数四半期前から継続してきた事業部門の子会社の経営合理化の結果です。コスト比率は、3.7ポイント減の61.8%と、著しく改善されました。

¹ 同じ会計処理方法に基づく：2011年第1四半期より、支払い経費として適用していた金額を収益へ再分類。

リスク関連費用は、前年同期比23.5%低下しました。これにより、ここ数四半期間の下降傾向が確認されました。主に地域銀行とファイナンス事業のための引当金は増加しており、それにも拘わらずリスク関連費用は減少しています。このリスク関連費用の減少は、リテール・バンキング、専門金融サービス並びにファイナンス事業のための特定の引当金に関係しています。

社会面、環境面の責任においては、当グループは過去 10 年にわたり実施されてきたとおり進歩的アプローチ採用していますが、それはクレディ・アグリコル S.A.の株式が、3 つの主な社会的責任投資株価指数(SRI)に含まれていることにも反映されています。それら 3 つは、ASPI ユーロゾーン(2004 年以降)、FTSE4Good(2005 年以降)、ダウ・ジョーンズ・サステナビリティ指標(DJSI、2008 年以降)です(DJSI Stoxx は 2008 年以降、DJSI World は、2009 年以降)。

さらに、クレディ・アグリコルは、カナダの雑誌コーポレート・ナイツ(Corporate Knights)によって発表された「世界で最も社会的責任感を果たす企業ランキング 2011 年」において、フランス国内企業で第 1 位(世界ランキングで第 8 位)となりました。また、英国の非営利研究機関(NGO)である環境投資機構(Environmental Investment Organisation)により発表された「欧州の大企業上位 300 社の温室効果ガス排出量評価」の中では、フランス国内で第 2 位(欧州で第 12 位)となりました。

2011年第1四半期には、クレディ・アグリコルS.A.グループの、企業の社会的責任に対するコミットメントが以下のことを通して明らかにされました。

- グラミン銀行の創設者で、グラミン・クレディ・アグリコル・財団法人の共同創立者でもある、ノーベル平和賞を受賞したムハマド・ユヌス氏に対する後援を確認しました。
- 2011年3月の東日本大震災及び津波による日本人犠牲者に対し、第一弾として800,000ユーロの義援金協力をさせて頂きました。

決算スケジュール

2011年 5月18日	ストラスブルグにおいて年次総会
2011年 5月26日	権利落ち日(配当支払い日: 2011年6月20日)
2011年 8月25日	2011 年度第2四半期及び上半期決算発表
2011年11月10日	2011 年度第3四半期及び9ヶ月決算発表

クレディ・アグリコル S.A.連結決算

(in millions of euros)	Q1-2011	Q1-2010	Change Q1 / Q1	Change Q1 / Q1 *
Revenues	5,304	4,824	+10.0%	+9.2%
Operating expenses	(3,276)	(3,162)	+3.6%	+2.8%
Gross operating income	2,028	1,662	+22.0%	+21.3%
Cost of risk	(822)	(1,074)	(23.5%)	
Operating income	1,206	588	x2.1	
Equity affiliates	441	425	+3.8%	
Net income on other assets	1	(159)	nm	
Change in value of goodwill	0	(4)	nm	
Tax	(520)	(270)	+92.6%	
Net income (after tax) from discontinued activities	(4)	4	nm	
Net income	1,124	584	+92.5%	
Net income Group share	1,000	470	x2.1	

* 同一条件及び一定の為替レート使用

2011年第1四半期は、クレディ・アグリコルS.A.グループは、同一条件及び一定の為替レートの下で、9.2%増加し、53億ユーロの収益を達成しました。これは全ての事業部門での堅調な推進力を反映しています。

第1四半期は、全ての事業部門がより高い収益を達成しました。カリスペツィアの業績結果が初めて連結された以外に、為替変動や会計処理範囲の変更による著しい影響はありませんでした。フランスのリテール・バンキング-LCL¹で4.2%の増加、国際リテール・バンキングで7.0%の増加、専門金融サービス部門で2.1%の増加、資産運用、保険及びプライベート・バンキングで10.9%の増加、CA-CIBで20.6%の増加となりました。

この高い収益成長率と並んで、費用は厳しく抑えられました。コスト比率は61.8%で、前年同期比3.7ポイントの改善が見られました。

第1四半期の営業総利益は、22.0%の著しい増加により20億ユーロに達しました。

コスト関連費用は、前年同期比23.5%低下しました。これはビジネス環境の改善を反映しています。LCLは17.3%の低下(8,000万ユーロ)、国際リテール・バンキングは9.3%の低下(3億1,800万ユーロ)、CA-CIBは55%の低下(1億3,000万ユーロ)となりました。

問題のあるローン(顧客とのリース・ファイナンスの取引は除く)は、2011年3月31日現在で顧客全体と銀行間ローン残高の4.4%でした。それらは、65.5%が準備金を含む引当金でカバーされました。

関連会社の純利益は、地域銀行が過去最高の業績を達成したことにより、4億4,100万ユーロとなりました。純利益グループ帰属分への寄与は12.3%上昇し、上場来最高水準の12.3%でした。

¹ 同じ会計処理方法に基づく：2011年第1四半期より、支払い経費として適用していた金額を収益へ再分類。

当期、**その他の資産の純利益**は、特別項目から著しい影響は受けませんでした。2010年の第1四半期は、インテサ・サンパオロ (Intesa Sanpaolo) の持ち分 0.8%の売却損が含まれていました。

全体では、**純利益グループ帰属分**は、10億ユーロで、前年同期比2.1倍となりました。2010年第1四半期には、非継続事業の損失からマイナスの影響を受けていました。

財務状況

クレディ・アグリコルS.A.は、引き続き極めて健全な財務状況を保っています。ティア1キャピタルは強化され、リスク加重資産も抑えられました。ティア1キャピタルは、2011年3月31日現在、2010年12月31日現在比0.6%増の647億ユーロ(控除前)でした。リスク加重資産は、主にマーケット・リスクの低下により0.8%減少し、3,690億ユーロとなりました。

2011年3月31日現在、コア・ティア1・レシオは30ベース・ポイント上昇し、8.7%になりました。これは準備金の増加及び、少数株主持分の増加によるものです。

2011年第1四半期のティア1・ソルベンシー・レシオは、2010年第4四半期の水準から20ベース・ポイント上昇して、10.8%となりました。

クレディ・アグリコルS.A.のCRDレシオは12.8%で、2010年第4四半期と比較しても安定しています。

2011年3月末現在の**クレディ・アグリコル・グループ**のCRDレシオは、11.8%で、ティア1・レシオは10.5%でした。旧基準(unfloored)の場合、これらのレシオは、それぞれ13.8%、12.0%になります。

部門別決算

1. フランス国内のリテール・バンキング

1.1 -クレディ・アグリコル地域銀行

(in millions of euros)	Q1-11*	Q1-10	Change Q1/Q1*
Net income accounted for at equity (approx. 25%)	227	209	+10.6%
Change in share of reserves	147	124	+15.4%
Share of income from equity affiliates	374	333	+12.3%
Net income Group share	374	333	+12.3%

*国際財務報告基準(IFRS)による、地域銀行 38 行の持ち分の連結寄与分(グループ内取引は修正済み)

1.2. - LCL

(in millions of euros)	Q1-11	Q1-10	Change Q1/Q1	Change Q1/Q1 ¹
Revenues	988	965	+2.4%	+ 4.2%
Operating expenses	(612)	(641)	(4.6%)	(1.9%)
Gross operating income	376	324	+16.0%	+ 16.0%
Cost of risk	(80)	(96)	(17.3%)	
Operating income	296	228	+30.1%	
Net income Group share	195	151	+28.9%	

1 2011 年第 1 四半期より、支払い経費として適用していた金額を収益へ再分類。

2. 国際リテール・バンキング

2011年第1四半期の国際リテール・バンキングは、目覚ましい業績の伸びを達成し(エンポリキを除く)、営業利益は17.3%増加しました。

カリスペツィア(Carispezia)の拠点網とカリパルマとの(Cariparma)の合併による、新たなイタリア国内組織の統合の第一段階が、当期から開始されました。この統合は、新規支店の統合により2011年第2四半期中には完了予定です。

エンポリキを除いた業績結果も、経営効率の改善を反映して、2011年1月から3月までの収益は前年同期比で8.5%増加、営業総利益は9.5%増加しました。有機的成長は堅調で、カリスペツィアの統合及び関連費用の連結範囲の変更による影響を除いて、ほぼ11%の伸びとなりました。

リスク関連費用は、改善されました。前年同期比では、ほぼ横ばい(1.1%増)で、2010年第4四半期比では15.2%減少しました。

営業利益は著しく増加し、当期には1億2,000万ユーロに達しました。カリスペツィアの統合及び関連費用の連結範囲の変更による影響を除いて、前年同期比では20.9%の増加となりました。

全体的には、**エンポリキを含めた当事業部門の業績は**、ギリシャの経済環境の悪化によって、その悪影響を受けました。当事業部門の純利益グループ帰属分は、5,900万ユーロの損失となりました。

(in millions of euros)	Q1-11	Q1-10	Change Q1/Q1
Revenues	773	722	+7.0%
Operating expenses	(495)	(478)	+3.6%
Gross operating income	278	244	+13.7%
Cost of risk	(318)	(350)	(9.3%)
Equity affiliates	28	47	(40.7%)
Pre-tax income	(12)	(59)	(79.5%)
Net income from discontinued activities	1	4	nm
Net income Group share	(59)	(97)	(38.5%)

イタリアでは、カリパルマの2011年第1四半期の営業総利益は、前年同期比18.7%増の1億5,600万ユーロとなりました。これは、カリスペツィア統合による連結範囲の変更の影響と、着実な有機的成長の両方を反映しています。

カリパルマの業績結果には、カリスペツィアの業績が初めて反映されています。当期は、新しいイタリア国内の組織統合の第一段階となります。当銀行では、新しい拠点網が123,000人の新規顧客¹を獲得し、地域的にもその地位を強化してきています。新規拠点網は、ラ・スペツィア県では首位の銀行であり、支店数ではマーケットシェアの39.7%を占め、マッサ・カッラーラ県では第2位を占めています(14.2%)。

カリスペツィアと統合費用を除いて、カリパルマは営業総利益で(前年同期比)20.5%増と、大きな有機的成長を達成しました。コスト比率は57.4%で、持続的な事業運営の効率性が高いことを反映しています。

2011年第1四半期のリスク関連費用は、5,500万ユーロに抑えることができました。カリスペツィアを除くリスク関連費用は、前年同期比では3.5%増加、2010年第4四半期比では17.5%減少しました。支払い不履行(sofferenze)訴訟中のローンの割合は、市場平均を下回っており、市場平均²の2.5%に対し、カリパルマ・グループは1.4%でした。

全体では、2011年第1四半期の営業利益は顕著に増加し、前期比で14.3%増、前年同期比27.0%となりました。純利益グループ帰属分へのカリパルマの寄与は、4,100万ユーロに達しました。

¹ 2010年度決算数値

² 出典: ABI 月刊アウトLOOK、2011年4月

ギリシャでは、厳しい経済状況下にも拘わらず、エンポリキは柔軟性を見せ、継続して経営改善計画を実施してきました。エンポリキによる収益への寄与分は、1億9,100万ユーロと回復力を見せ、前年同期比2.6%の増加となりました。今期の費用は、引き続き厳しく抑えられ、前年比7.0%の減少、前年同期比で1.9%の減少となりました。コスト比率は68.4%で、2010年度の平均以下に抑えられました。

リスク関連費用(2億2,000万ユーロ)は当グループの基準に基づく引当金の上昇を反映したものです。一方、質を伴った成長も見られます。要管理債権に分類されるローンが減少し、住宅ローン以外のローンのカバーレシオが64%に達し、内容が改善しています。また、与信や回収手続きの改善が現在進められており、クレジットの承認手続きの集中化は全顧客層に対して徹底しており、回収手続きの機能が拡大しています。

第1四半期の純利益グループ帰属分に対するエンポリキの寄与分は、1億3,900万ユーロの損失となりました。

3. 専門金融サービス

(in millions of euros)	Q1-11	Q1-10	Change Q1/Q1
Revenues	1,004	983	+2.1%
Operating expenses	(421)	(429)	(2.0%)
Gross operating income	583	554	+5.2%
Cost of risk	(318)	(328)	(3.2%)
Operating income	265	226	+17.3%
Equity affiliates	3	3	(3.1%)
Pre-tax income	268	229	+16.9%
Net income Group share	160	127	+26.4%

4. 資産運用、保険、プライベート・バンキング

(in millions of euros)	Q1-11	Q1-10	Change Q1/Q1
Revenues	1,312	1,183	+10.9%
Operating expenses	(614)	(615)	(0.3%)
Gross operating income	698	568	+23.0%
Cost of risk	13	(2)	nm
Equity affiliates	3	1	nm
Pre-tax income	714	564	+26.8%
Net income Group share	443	349	+26.8%

5. 法人営業及び投資銀行(CA-CIB)

第1四半期のCA-CIBは、当事業部門が採用したビジネスモデルに沿って堅調な業績結果を達成しました。第1四半期の純利益グループ帰属分は、3億3,000万ユーロで、2010年第4四半期比で25.3%の増益、2010年第1四半期の2倍以上に達しました。

(in millions of euros)	Q1-11	Q1-11 Ongoing activities	Q1-10 Ongoing activities	Change Q1/Q1 Ongoing activities
Revenues	1,545	1,518	1,463	+3.8%
Operating expenses	(924)	(901)	(804)	+12.0%
Gross operating income	621	617	659	(6.2%)
Cost of risk	(130)	(73)	(147)	(50.0%)
Operating income	491	544	512	+6.3%
Equity affiliates	34	34	34	(0.6%)
Net income on other assets	3	3	-	nm
Pre-tax income	528	581	546	+6.4%
Tax	(193)	(212)	(154)	+37.8%
Net income	335	369	392	(5.9%)
Net income Group share	330	363	379	(4.2%)
Cost/income ratio	59.8%	59.3%	55.0%	

継続事業は、堅調な収益成長により、その回復力が確認されました。第1四半期の収益(社債発行とローン・ヘッジの再評価による修正後)は、前年同期比2.1%増加しました。これは、ファイナンス事業で引き続き高収益を達成したことと、資本市場部門のビジネスが回復し、2010年第1四半期の高水準に戻ったことによるものです。費用は抑えられ、2010年第4四半期比で1.6%減少しました。2011年第1四半期のコスト比率は、60%以下に抑えられました。一方リスク関連費用は、中東情勢の不透明性によって引当金が増加したことから不芳な影響を受けました。純利益グループ帰属分は、3億6,300万ユーロでした。

第1四半期の非継続事業のマイナス影響額は、2010年第1四半期の2億2,200万ユーロの損失に対し、純利益グループ帰属分への影響は3,300万ユーロの損失に留まりました。

ファイナンス事業

ファイナンス事業のオペレーションは、経常収益の基盤を確実なものとししました。ストラクチャード・ファイナンスの収益は4億ユーロに達し、2010年第4四半期に匹敵する高水準を維持しました。当グループは、船舶及びコモディティーのファイナンス事業では、優れた業績を達成しました。CA-CIBは、欧州、中東、アフリカ(EMEA)地域1のプロジェクト・ファイナンスにおいて、第3位から第2位に上がりました。商業銀行部門のファイナンス事業も、金利差益が低下し、流動性コストが上昇する環境下にあっても、安定した業績を達成することができました。CA-CIBは、現在フランス、西欧、EMEA地域1のシンジケーション・ビジネスで第1位を占めています。ローン・ヘッジのアクティブ運用により、ローン・ポートフォリオの(ボラティリティーによる)影響額は減少しました。

¹ 出典: トムソンファイナンス

(in millions of euros)	Q1-11	Q1-10	Change Q1/Q1
Revenues	640	651	(1.7%)
Operating expenses	(222)	(202)	+9.9%
Gross operating income	418	449	(6.9%)
Cost of risk	(79)	(131)	(39.6%)
Operating income	339	318	+6.7%
Equity affiliates	34	33	+3.3%
Net income on other assets	1	-	nm
Pre-tax income	374	351	+6.6%
Tax	(143)	(95)	+50.7%
Net income	231	256	(9.7%)
Net income Group share	229	246	(7.0%)

リスク関連費用は、主に中東情勢の不透明性のために引当金が7,900万ユーロ計上されたにも拘わらず、前年同期比で39.6%も減少しました。2010年3月31日現在の引当金は、15億ユーロでした。顧客のローン残高に対するリスク関連費用は、前期の45ベシス・ポイントから今期には26ベシス・ポイントに低下しました。

ファイナンス事業全体では、第1四半期の税引前利益は、前年同期の3億5,100万ユーロに対し、6.6%増の3億7,400万ユーロに達しました。

資本市場部門及び投資銀行部門

資本市場部門及び投資銀行部門は、全般的に、マーケットの推進力の回復によりプラスの影響を受けました。収益(社債発行の再評価を除く)は2010年第4四半期比で48%高く、前年同期比では1.4%高くなっています。

(in millions of euros)	Q1-11	Q1-10	Change Q1/Q1
Revenues	878	812	+8.1%
Operating expenses	(679)	(602)	+12.7%
Gross operating income	199	210	(4.8%)
Cost of risk	6	(16)	nm
Operating income	205	194	+5.7%
Equity affiliates	-	1	nm
Net income on other assets	2	-	nm
Pre-tax income	207	195	+6.0%
Tax	(69)	(59)	+17.1%
Net income	138	136	+1.2%
Net income Group share	134	133	+0.9%

債券関連部門では、2011年第1四半期の営業収益が増加しました。この増加は、債券デリバティブの高収益と、デッド及びクレジット・マーケット部門の優れた業績によるものであり、債券発行市場（主にカバード・ボンドや社債）と流通市場の推進力が強かったことが部門収益に寄与しています。財務部門も堅調な業績を達成しました。これは、欧州のソブリン債スプレッドが当期中は安定したことから、収益にプラスの影響を受けました。部門全体の収益は、前期の2億2,800万ユーロに対し、5億2,800万ユーロに増加しました。これには、有担保スワップ取引の評価範囲の変更による1億2,000万ユーロのコストが含まれています。

株式部門の収益は3億9,500万ユーロに達し、マーケットの堅調な推進力もあって、前期より僅かに増加しました。フローの株式デリバティブ・ビジネスと投資銀行部門はマーケット環境が改善している中で、好業績を達成しました。CA-CIBは、M&A部門において2010年にはフランス国内17位でしたが、2011年は「ナンバー・ワンM&Aアドバイザリー・サービス1」と賞されました。ブローカレッジ・ビジネスは、主にアフリカと日本が地政学的な変動要因により、プラスの影響を受けました。

仕組み社債（structured debt issues）の再評価により、部門収益に対し4,500万ユーロのマイナス影響が発生しました。

全体では、資本市場部門及び投資銀行部門の継続事業の収益は、8億7,800万ユーロとなり、前年同期比8.1%増加しました。この増加は、リスク関連費用を抑えながら達成されたものです。継続事業のVaR（最大損失予想額）は、限度額である3,500万ユーロを遙かに下回りました。資本市場部門及び投資銀行部門の税引後純利益グループ帰属分は1億3,400万ユーロとなり、2010年第1四半期に比べ安定してきました。

非継続事業

(in millions of euros)	Q1-11	Q1-10	Change Q1/Q1
Revenues	27	(182)	nm
Operating expenses	(23)	(25)	(8.0%)
Gross operating income	4	(207)	nm
Cost of risk	(57)	(140)	(59.3%)
Pre-tax income	(53)	(347)	(84.7%)
Tax	19	120	(84.2%)
Net income	(34)	(227)	(85.0%)
Net income Group share	(33)	(222)	(85.1%)

第1四半期の非継続事業は、2,700万ユーロのプラス収益となり、その影響は僅かでした。

CDO、CLO、ABSのポートフォリオは、リスク関連費用が5,700万ユーロとなり、マイナスの影響を及ぼしました。これは、主に債務不履行の発生による構造的な影響と住宅ローン以外の優先ローンに対し、より厳しい評価基準を採用したことが原因です。

¹ 出典：トムソンファイナンシャル

コリレーション事業のポートフォリオにおけるリスク・パターンとモニター指標は、2009年に定められた安定化計画に沿って推移しました。残存するエキゾチック・エクイティ・デリバティブは、当期中に1,400万ユーロの収益を生みました。

非継続事業全体では、当期の純利益は、2010年第1四半期の2億2,700万ユーロの損失、2010年第4四半期の9,300万ユーロの損失に対し、当期は3,400万ユーロの損失となりました。

6. コーポレート・センター

(in millions of euros)	Q1-11	Q1-10	Change Q1/Q1
Revenues	(318)	(310)	+2.1%
Operating expenses	(210)	(170)	+25.0%
Gross operating income	(528)	(480)	+10.1%
Cost of risk	11	(11)	nm
Operating income	(517)	(491)	+5.6%
Equity affiliates	(1)	7	nm
Net income on other assets	(2)	(160)	nm
Pre-tax income	(520)	(644)	(19.2%)
Net income Group share	(443)	(550)	(19.6%)

社会的・環境的責任

社会的、または環境的企業責任の分野では、数年前に当グループ内で採用された継続中の社会的責任投資の一部達成とそのアプローチが認められました。クレディ・アグリコルS.A.の株式は、幾つかの社会的責任投資株価指数(SRI)に組み入れられています。具体的には、現在以下の3つの主要なエキストラ・ファイナンシャル(Extra Financial)指数に含まれています。ASPIユーロゾーン(2004年以降)、FTSE4Good(2005年以降)。ダウ・ジョーンズ・サステナビリティ指標(DJSI 2008年以降)。DJSI Stoxxは2008年以降、DJSI Worldは、2009年以降。

クレディ・アグリコルは、二酸化炭素(CO2)排出量が最も低いフランス企業で第2位となり、欧州の300の最大規模の企業の中でも12位でした。(出典: 環境投資機構: Environmental Investment Organisation)

2011年第1四半期では、企業の社会的責任に対するクレディ・アグリコルS.A.グループのコミットメントは、以下の分野において明らかになりました。

- ・ グラミン銀行の創設者並びにグラミン・クレディ・アグリコル・財団法人の共同創立者でもある、ノーベル平和賞を受賞したムハマド・ユヌス氏に対する後援の確認
- ・ 2011年3月の東日本大震災及び津波による日本人犠牲者に対する支援として、800,000ユーロの義援金協力。

クレディ・アグリコル連結決算

クレディ・アグリコルの純利益グループ帰属分は2010年前年同期比で60.9%増の15億2,700万ユーロとなりました。これは、リテール・バンキングの業務運営効率性の強化、資産運用ビジネスの着実な進捗、非継続事業の損失額の減少を反映しています。更には、前年同期の業績結果は、当グループによるインテサ・サンパオロの持ち分0.8%の売却損を反映していました。今期では、収益は90億ユーロで、前年同期比7.7%増加しました。一方で費用は前年同期比4.0%の増加となりました。今期の営業総利益は、地域銀行の17億ユーロも含めて前年同期比13.4%増加し、37億ユーロに拡大しました。リスク関連費用は、前年同期比22.1%減少しましたが、前期比では、ファイナンス事業と地域銀行の引当金上昇により、僅かに増加しています。

€m	Q1-11	Q1-10	Δ Q1/Q1
Revenues	8,978	8,335	+7.7%
Operating expenses	(5,231)	(5,030)	+4.0%
Gross operating income	3,747	3,305	+13.4%
Cost of risk	(1,200)	(1,541)	(22.1%)
Operating income	2,547	1,764	+44.4%
Equity affiliates	64	89	(28.1%)
Net income on other assets	4	(158)	nm
Change in value of goodwill	-	(4)	nm
Pre-tax income	2,615	1,691	+54.6%
Tax	(971)	(633)	+53.4%
Net gain/(loss) on discontinued operations	(4)	4	nm
Net income	1,640	1,062	+54.4%
Net income Group share	1,527	949	+60.9%

クレディ・アグリコルS.Aの2011年第1四半期の財務情報は、当プレスリリースと添付プレゼンテーションから構成されています。全ての情報規制は、登録情報も含めて、www.credit-agricole.com/Finance-and-Shareholdersの“財務情報”で入手することが可能です。これらの情報は、フランス金融監督庁の定めるL. 451-1-2 of the Code Monétaire et Financier and articles 222-1 et seq. of the AMF General Regulationの規定に従って、クレディ・アグリコルS.A.により公開されています。

Investor relations +33 (0) 1 43 23 04 31

Denis Kleiber +33 (0) 1 43 23 26 78

Nathalie Auzenat + 33 (0) 1 57 72 37 81

Colette Canciani + 33 (0) 1 57 72 38 63

Sébastien Chavane + 33 (0) 1 57 72 23 46

Fabienne Heureux + 33 (0) 1 43 23 06 38

Marie-Agnès Huguenin + 33 (0) 1 43 23 15 99

Aurélie Marboeuf + 33 (0) 1 57 72 38 05

Disclaimer

This presentation may include prospective information on the Group, supplied as information on trends. This data does not represent forecasts within the meaning of European Regulation 809/2004 of 29 April 2004 (chapter 1, article 2, § 10).

This information was developed from scenarios based on a number of economic assumptions for a given competitive and regulatory environment.

Therefore, these assumptions are by nature subject to random factors that could cause actual results to differ from projections.

Likewise, the financial statements are based on estimates, particularly in calculating market value and asset depreciation.

Readers must take all these risk factors and uncertainties into consideration before making their own judgement.

Applicable standards and comparability

The figures in this document have been drawn up in accordance with the IFRS accounting standards adopted by the European Union